自分で考えて行動する子に育てるには？

カナダ人と日本人の間で、こんな会話がありました。

「日本の子ども達、大丈夫？」と聞かれ、「どうして」と理由を尋ねると、「日本から来る若者達は、素直でいい若者なのですが、指示されなければ動かない」と言うのです。テーブルに食器が散らばっていても、「お皿を下げて」と言わなければ下げてくれないし、ゴミがあっても指示しなければ掃除しようとしないそうです。

だれかに指示されてから動くのではなく、子ども自身がその状況のなかで考えて判断し行動する、つまり「主体性」のある子どもに育ってほしいと思いませんか？

よくまちがわれるのが、「自主性」と「主体性」。

「自主性」は、やるべきことをいかに**人に言われる前にやるか**ということ。

「主体性」とは、**自分の意思や判断で行動する**ということ。

この２つの言葉の大きな違いは「自分の頭で物ごとを考えるか、考えないか」にあります。社会に出てから困らないようにするために、**主体的に行動できるように促していきましょう。**

考える機会が少ない子どもたち

ご家庭でも、子どもが考えるよりも先に、親がやってあげてしまっていませんか？道筋をつけてあげていませんか？

子どもに考える時間を与えずにすべてやってあげていると、子どもは考える必要性を感じにくくなってしまいます。人に言われたことをすることは楽なので、そちらに流れます。まして、言われた事だけを行ない、褒められれば尚のことです。

家庭できること

自分で考えて行動できるようになるには、自分の頭で考えることがポイントです。子どもが自分で考えるようにことばかけをしてみましょう。

１．自分で選択したり、考えたりして判断させる

子どもが自分で判断し選択する機会をたくさん用意することです。がすぐやってあげずに、選ばせたり考えさせたりしてみるのです。

２．理由を説明してもらう

子どもが何かを要求したり主張したときに、その理由をきく習慣をつけること。

「受け入れ側の態度が、子どもの口を開かせます。

３．待つこと

不手際でも、一度決めたら最後まで任せて見守ることが子どもの自発性を促します。子どものなかに考える力があることを信じて、子どもが考える機会を与えて待ってあげてくださいね。